



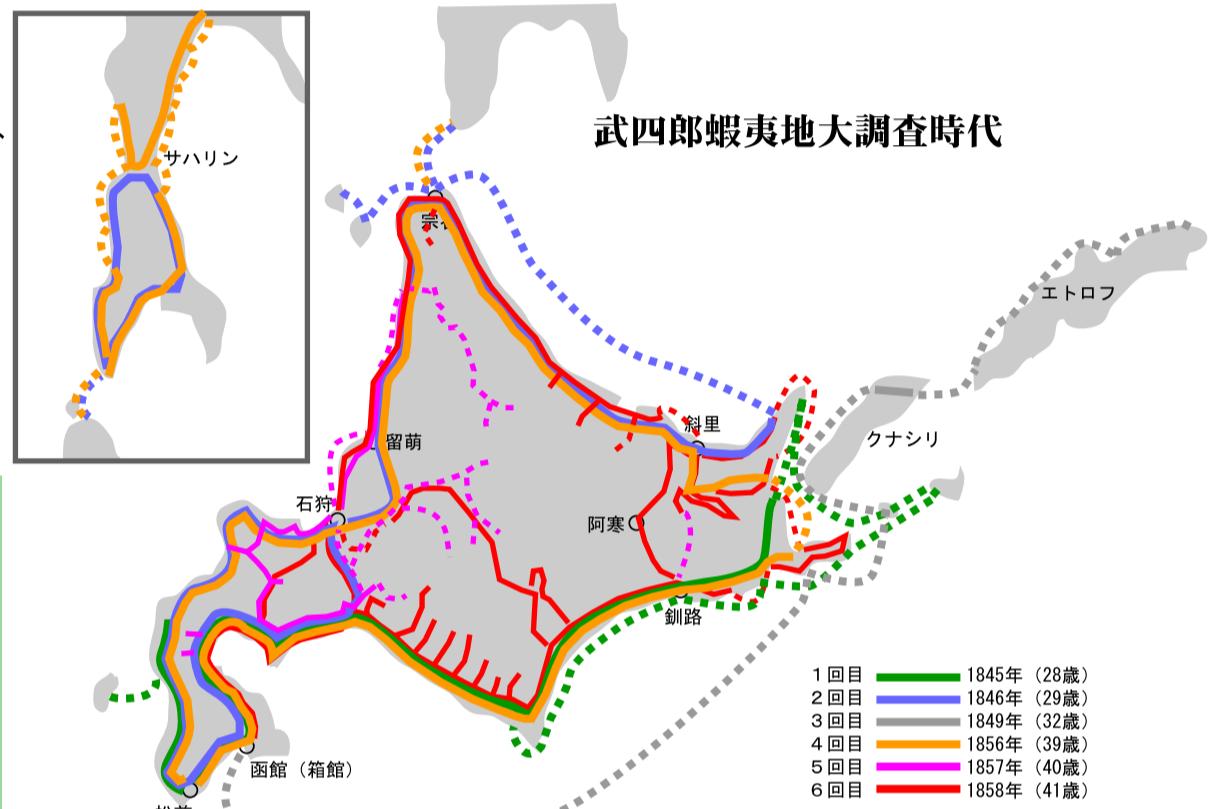
▲武四郎「漢詩碑」。湖上巡りの後、感想を漢詩に詠ったもの。ボッケ散策路。



▲武四郎「詩碑」。阿寒で詠った和歌のうち、滝口の風景を詠った。雄阿寒登山口国道沿い。

松浦武四郎年表～起承転結の旅人生～

1818 (文政元) 1歳	武四郎誕生。[伊能忠敬没]
1834 (天保5) 17	旅に出る。全国を4年間まわる。19歳で四国遍路。
1843 (天保14) 26	北方領土の大切さを認識。北方探検を準備するため、伊勢に戻る。
1845 (弘化2) 28	1回目の蝦夷地調査。蝦夷地調査時代。
1846 (弘化3) 29	2回目の蝦夷地調査。
1849 (嘉永2) 32	3回目の蝦夷地調査。千島を探検。
1855 (安政2) 38	蝦夷地御用掛をおおせつかる。 [蝦夷地が幕府の直轄地になる]
1856 (安政3) 39	4回目の調査。宗谷からカラフトにわたる。
1857 (安政4) 40	5回目の調査。石狩周辺を重点。
1858 (安政5) 41	6回目の調査。釧路、阿寒、摩周などを回る。 (陽曆:現在の月日) 3月 24日 (5/7) 釧路出発。トクシツナイ (新野) 泊。 25日 (5/8) シモシタカラ (下舌辛) からフブシナイ (布伏内) 泊。 26日 (5/9) テシベツ (徹別) からアクベツ (飽別) 泊 ルベシベからマチネシリ (雌阿寒岳) へ登山。 雪が残り、風も強く、頂上では雲海に覆われる。 湖畔で泊。温泉に浸かる。 28日 (5/11) 滝口周辺探訪。丸木舟を湖水に浮かべ、4島巡り。 ライライペ (イトウ) など魚を食す。 シリコマベツを経由し、網走にむかう。
1859 (安政6) 42	『東西蝦夷地山川地理取調図』出版。
1868 (明治元) 51	新政府に招へいされ、箱館府判事となる。 [1867 大政奉還]
1869 (明治2) 52	開拓判官になり、道名・国名・郡名の選定に尽力。 「北加伊道」など六案提案。「北海道」の名付け親。 [箱館戦争終焉。北海道改称] ●釧路国阿寒郡の名称確定される。
1870 (明治3) 53	アイヌ軽視の政策に反発。一切の官職から身をひく。 ●明治9：佐野孫右衛門、雌阿寒硫黄採掘する。
1885 (明治18) 68	大台ヶ原登山。以降、調査をすすめる。以降、東海、山陽、四国九州へ。)
1887 (明治20) 70	●アイヌに対する勧農政策が出る。 畠一畠の書斎を造る。(一畠敷) [1886北海道庁設置]
1888 (明治21) 71歳	●舌辛村外三ヶ戸長役場 (阿寒町開基元年) 従五位に叙されるも、2月10日没。



■「松浦武四郎探検像」
久摺探訪から百年目の
1958年に阿寒国立公園
観光協会により建立。
釧路市幣舞公園。